

<p>2 現行授業の目標と教育効果及びそれに対する自己評価</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>【アクティブ・ラーニングの手法の活用】</p> <p>担当科目においては、学生たち自身の「考える力」を身に付ける機会を取り入れるため、アクティブ・ラーニングの手法を導入している。活動の振り返りを通して、学生たちが互いを認め協力しながら積極的に意見を出し合い、活動内容をより高度なものにしていくことを心がけている。</p> <p>【「体育ノート」の導入】</p> <p>授業終了後に、学習内容をまとめる「体育ノート」の提出を義務づけている。次回の授業でこれらを元に授業内容を振り返り、学生たちから寄せられた意見や質問を紹介することで、授業への参加意欲を高めていける授業実践を心がけている。</p> <p>自己評価としては、学生一人一人が毎回の授業に対する参加意欲が高く見られたという点、保育者として必要なねらい・内容の習得、理解しようとする姿が多く見られたという点から、おおむね達成できたと考える。アクティブ・ラーニングの導入を多く取り入れることにより、一部消極的な学生も見られる中、自分なりに変わろうと積極的な姿勢への変化もあった。将来保育者として子どもたちと関わる者となる学生が一つの取り組みに対して自ら主体的にアイデアを出し合い、子どもの目線で楽しさを実感しながら取り組む様子が見られた。</p>																				
<p>3 学生による授業評価も踏まえ、教育改善への取り組み</p> <p>(記述式：900字以内)</p>	<p>【担当科目「体育」における授業評価アンケート調査結果から】</p> <p>アンケート調査の結果、第一に、毎回の授業内容をまとめた「体育ノート」の作成は、振り返りができる、今後の実習や現場で役立てることができるということから、高評価であった。第二に、グループによる模擬保育の実践については、計画の立案・実践・振り返り・改善までを行うことで、グループ全体の協調性だけでなく、一人ひとりの実践力向上にもつながり、参加意欲が高められると評価された。</p> <p>本授業では、レクリエーションスポーツも含めて幼児体育の内容を中心に実践する上で、学生個人が抱える苦手分野を克服するために周りの学生と共に苦手を得意へ、嫌いを好きになる意識づくりの方法・考え方、工夫する力を身に付けることに努めている。自ら考え実践し、振り返り、改善まで行うことが今後の学びに対する楽しさや喜びへとつながるのではないかと考える。</p>																				
<p>4 教科書、教材の作成状況</p> <p>(記述式：300字以内)</p>	<p>幼児に体育を指導する上での実践方法や留意点をまとめた資料、指導案の作成例等を独自に作成し学生に配布している。</p>																				
<p>5 学生の指導（課外活動・厚生補導等）</p> <p>(主要10件以内)</p>	<table border="1"> <tr> <td>2017年4月～現在に至る</td> <td>バドミントン部顧問</td> </tr> <tr> <td>2017年5月～現在に至る</td> <td>陸上部顧問</td> </tr> <tr><td> </td><td> </td></tr> </table>	2017年4月～現在に至る	バドミントン部顧問	2017年5月～現在に至る	陸上部顧問																
2017年4月～現在に至る	バドミントン部顧問																				
2017年5月～現在に至る	陸上部顧問																				
<p>6 その他</p> <p>(主要5件以内)</p>	<table border="1"> <tr><td> </td><td> </td></tr> </table>																				
研 究 業 績																					
<p>1 研究分野・活動</p> <p>(記述式：350字以内)</p>	<p>現代の若者は、生活習慣の乱れが問題としてあげられるのではないかと考える。昨年まで高校教諭として3年間勤務した中で、生徒の身体状況の特徴と身体への悪影響、またその原因を探った。授業や部活動を通して全体的に普通の生活リズムが乱れていると強く感じた。具体的にあげると、睡眠不足や体力の低下、そして中でも一番気になったのが食事の欠食・偏食についてである。こうした若者の生活習慣の乱れ、食生活の乱れから改善を目的とした「食育基本法」によって問題解決へと進められているが、現状は未だに変えられていないと考える。そこで本研究では、本学生保育学科を中心に、食生活の実態と健康に対する意識についてアンケート調査を実施することで、学生自身が食への意識に気づいた上で、今後の指導内容や方法をあげて実践することを目的としている。</p> <p>身体を動かす機会が少ないということである。その結果、疲れやすい身体となり怪我をしやすくなることや、体調を崩しやすい生徒が多数であった。教育現場では「食育」の本学では、学生が保育者になるために担当科目である体育の授業を通じて何が大切であるのかを考え、体力面が第一ではないかと考える。</p>																				

2 研究課題 (今後の展開・可能性を含む) (記述式：350字以内)	「学生の生活改善のための健康教育の実践とその効果」 アンケート調査の項目に「現在の身体状況」を調査したところ、多くの不調を訴えている学生が多かった。自身の状況を把握しているにも関わらず、改善に向けた取り組みは特に実行できていない。これに加えて、身体を動かす機会も減少していることから体力の低下につながっていることも調査結果からわかる。そこで、体力の低下と食事の摂り方に関係性があるのか、まずは自分自身の現在の体力状況・身体能力の状況を知るために体力・運動能力テストを実施することを予定している。改めて自身の身体状況を知り、自身の身体に興味を持つことで様々な意識変化につながるのではないかと考える。
3 研究助成等 (主要5件程度)	(1) 文部科学省科学研究費 (2) 学内 (3) 学外
4 資格・特許等 (主要3件以内)	高等学校教諭一種免許状（保健体育） 高等学校教諭一種免許状（公民）

著書、学術論文、作品等の名称 (主要15件以内)	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行又は発表 雑誌等又は発表 学会等の名称	要約		
領域「健康」のねらい及び内容に即した保育者養成校における指導の課題と可能性—学生の食生活の実態と健康に関する意識調査の結果から—	共著	平成30年3月	拓殖大学北海道短期大学研究紀要創立50周年記念号	本論文は、保育者養成校のカリキュラムの根幹を成す保育・教育内容＝領域の授業展開や学生指導において生じ得る課題を整理し、その解決の可能性を探ることを目的としている。特に、領域「健康」において改定幼稚園教育要領で重視されている「自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」というねらいを、将来の保育者である学生ら自身が実現できているのかを明らかにすることは重要である。		
幼稚園教育要領改訂後の教員養成のあり方～三つの幼児教育施設と小学校との接続の視点から～	共著	平成30年3月	拓殖大学北海道短期大学研究紀要創立50周年記念号	本論文は、2017年告示『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の5つの領域の共通性に着目し、今後の幼稚園教諭等の養成の在り方を考察する。『小学校学習指導要領』の音楽や体育と領域健康・表現との関連性を明らかにし、「指導と評価の一体化」の実現への課題を示す。また、「幼児教育において育みたい資質・能力」への理解を深めることは、領域（健康・表現）の指導において特に重要であることを明らかにした。		
幼児センターにおける保育実践～運動遊びと言葉遊び～	共著	平成30年3月	拓殖大学北海道短期大学研究紀要創立50周年記念号	3、4、5歳児が楽しく体幹を鍛える運動遊びの実践を、愛別幼児センターにて年4回展開した。方法としては、立つ、座る、歩く、走る、はねる、起きる、這う、回る、持つ等の動きにおいてカードを使用して様々なゲームや4種類の鬼ごっこに取り入れ、「体のバランスをとる動き」、「体を移動する動き」、「用具などを操作する動き」がより滑らかに遂行できるようプログラムした実践研究である。		
研究業績（過去3カ年分）						
著作数	論文数	学会等 発表数	その他		国際的活動 の有無	社会的活動 の有無
					無	無

学内運営業績	
1 役職、各種委員会等 (主要10件程度)	2017年4月～現在に至る 入試広報委員会 委員 2017年4月～現在に至る 情報通信ネットワーク運営委員会 委員

学 外 活 動 業 績

1 本学以外の機関（公的機関・民間団体等）を通じた活動 （主要 10 件程度）	2017 年 10 月～現在	愛別幼児センター「フロアリズム教室」 講師
	2017 年 12 月	旭川実業高等学校 進路ガイダンス・講義
	2017 年 3 月	江陵高等学校 進路ガイダンス・講義
2 学会・学術団体等の活動 （主要 10 件程度）	2017 年 5 月～現在に至る	日本体育学会 会員
	2017 年 5 月～現在に至る	北海道特別支援教育学会 会員